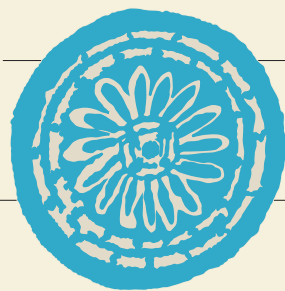


あきまる 秋麻呂くん 通信

『秋田城』と、
みんなの絆を
つなぎたいから。



平成25年9月30日 秋田城跡調査事務所



秋麻呂くん

秋麻呂くん通信は、みんなに秋田城のことを良く知ってもらい、秋田城との絆を深めてもらうための情報誌です。今回は秋田城に見学に来てくれた皆さんに、秋田城のことをくわしく紹介したいと思います。



■秋田城跡航空写真(南東から)



秋田城とは

秋田城とは、今から1270年くらい前の奈良時代に造られた「古代のお城」です。お城といっても、高い天守閣やお堀があるわけではありません。奈良時代から平安時代にかけて秋田を治めていた大きな役所で、この地方の政治や軍事、文化の中心地でした。

その頃東北地方には、蝦夷と呼ばれる人たちが暮らしていました。奈良や京都に都を置く天皇を中心とする律令国家は、その東北地方を治めるために、各地に「城」や「柵」という役所をつくりました。そのうち最も北にあったのが秋田城です。

秋田城は天平5年（西暦733年）山形県の庄内

地方にあった出羽柵が、ここ秋田の清水岡にうつされたのが始まりです。その後、奈良時代の中頃には阿支太城（秋田城）と呼ばれるようになりました。城は200年以上続いたことが、発掘調査でわかっています。

奈良時代には出羽国（東北地方の日本海側）全体の政治を行う「国府」（現在の県庁にあたる役所）が置かれていました。また、津軽（青森県）や渡嶋（北海道）に住む蝦夷の人々や、中国大陸にあった渤海国の使者が訪れる役所として、日本の北の窓口としても重要な場所だったと考えられています。



秋田城のある場所

秋田城跡は秋田市の北西部、JR秋田駅からは5kmほど離れたところにあります。城は昔の雄物川（秋田運河）が日本海に流れ込む河口（秋田港）近くにある高さ30～50メートルの^{たかしみず}高清水の丘の上につくられていました。

丘の上は、「高清水」の名前のとおりわき水が多く、地下水が豊富です。



秋田城を調べて保護する

秋田城跡は重要な遺跡として、昭和14年に国の史跡（国の法律でまもられる遺跡）になりました。

史跡の広さは高清水の丘一帯、約90万平方メートルにわたり、秋田市が遺跡を調べたり保護したりする仕事をしています。

史跡を調べる発掘調査は、昭和34年から37年までの4年間は国が行いました。そして昭和47年からは秋田市教育委員会が発掘調査を始め、現在も毎年行っています。



秋田城の大きさと形

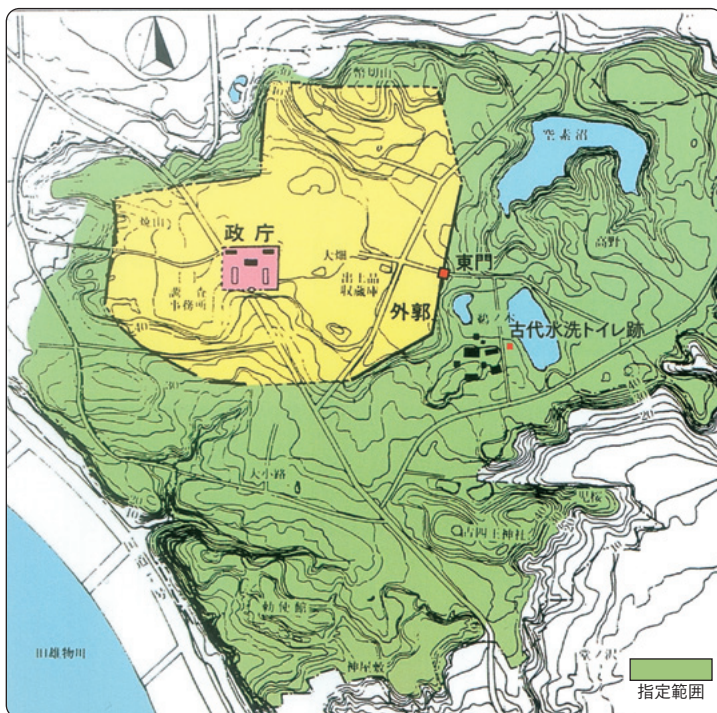
城壁で囲まれた城の大きさは、東西・南北約550メートルの大きさでした。城の形は北西側が欠ける方形になっています。城壁で囲まれた城の中心にある政庁も堀で囲まれる二重の形になっていました。そのつくり方は当時の都をまねしています。

奈良時代の城壁は築地塀^{ついでい}という土をつき固めて造った塀でした。初めは瓦の屋根で、全体で約4メートルの高さがありました。平安時代になると木の塀につくり替えられました。

城の東西南北にある出入り口の門のうち、東門と西門が発見されています。東門は発見された場所の上に赤く塗った柱に白い壁の立派な門として復元されています。



城内や
周辺の建物群からは
当時の生活の跡が
見つかっているんだよ。



■秋田城の地形図と史跡指定範囲



■発掘された外郭西辺築地塀



■復元された外郭東門と築地塀



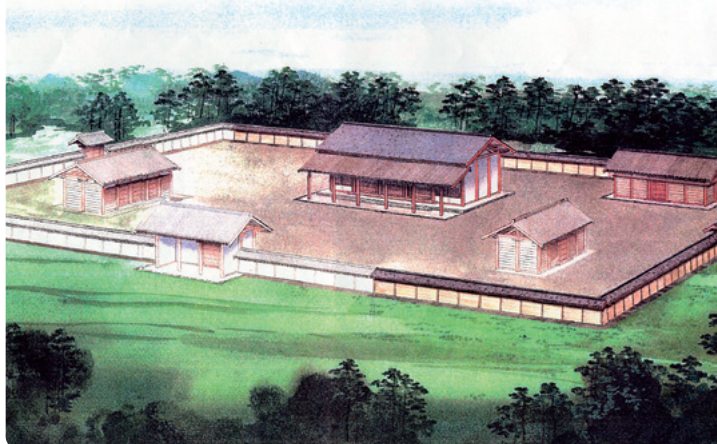
城の中と外の様子

政庁は秋田城の中心にある最も重要な場所で、南を正面として、築地塀で囲まれていました。

正殿と脇殿という建物に囲まれた中央広場では、出羽国の重要な行事や、蝦夷の人たちや外国からの使者を迎える儀式などが行われていました。

城の中では当時の施設や生活の跡が発見されています。西側の焼山地区には倉庫群、東側の大畑地区には鉄の品物を作る工場などが発見されています。また城壁のすぐ内側には役人や兵士が住んだ竪穴住居跡が数多く発見されています。

城の外にも城に関係する重要な建物などがありました。南東側の鵜ノ木地区には、「四天王寺」というお寺と考えられている建物跡や井戸跡が発見されています。井戸の中からは「天平六年月」（西暦734年）と書かれた木簡（木の札）も見つかりました。



■推定される政庁の姿



■見つかった政庁の正殿跡



■城の中で発見された竪穴住居跡



水洗トイレ

その他には、珍しい古代の水洗トイレ跡も発見されています。奈良時代の後半に使われたもので、沼地の岸边に建てられていました。当時の都にもない立派なトイレでした。

トイレからは、トイレットペーパーの代わりに使った「籌木」という木のへらや、消化されなかった種などがみつかっています。また、豚を食べることにより寄生する珍しい寄生虫の卵が発見されたことから、豚をよく食べる中国大陆の人がやって来てトイレを使った可能性があります。

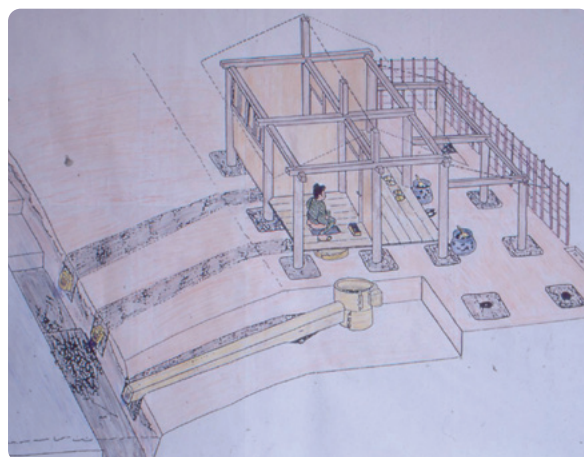
トイレが使われていた奈良時代、出羽国には大陸の渤海国からの使者がたびたび訪れていることから、その使者が秋田城を訪れ、立派なトイレを使ったことも考えられます。



■復元された古代水洗厠舎



■古代水洗トイレ跡



■推定される古代水洗トイレの姿



土の中から発見されたもの

秋田城で働いていた役人や兵士などが使ったもの（遺物）が、土器をはじめとして数多く発見されています。遺物からは当時のことをたくさん知ることができます。

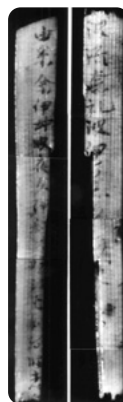
役人の仕事

役人が使った道具や、様々な記録が書かれた木の札（木簡）、紙に書かれた文書、文字が書かれた焼き物（墨書土器）から、蝦夷や移住してきた人々が暮らす社会の仕組みをくわしく知ることができます。



■ (↑) 硯と刀子・木簡 (→)

役人は筆を使って記録しました。木簡には様々な記録や和歌が書かれていました。刀子は木簡を削って書き直すためのものです。



■ 漆紙文書

漆が付いたため腐らなかった紙で、住民の戸籍や死んだ人の記録が書かれていました。

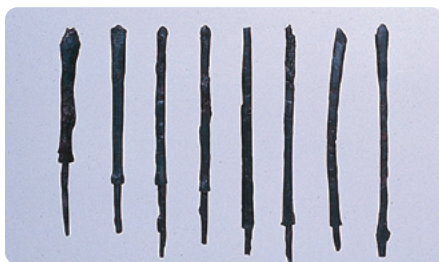
兵士の役割

兵士が戦いに使う刀や弓矢の矢じりや、鉄や皮をつなげて作った甲も見つかっています。

それらは、秋田城が、蝦夷の人々との戦いに備えた最前線の軍事基地であったことを教えてください。



■ 刀
大きな鉄の刀です。



■ 矢じり
矢の先に鉄の矢じりがつくことで、50m先まで狙えるとても強力な弓矢になりました。

武器を持った兵士達がお城を守っていたんだね



都の文化

都で流行したおまじないに使う道具や、非常に貴重なお金も見つかっており、当時の人々の願いや、都とのつながりを知ることができます。



■ 和同開珎銀錢

奈良時代のお金です。普通は銅銭で、銀銭はとても珍しいものです。



■ 身代わりの人形と人面墨書土器

悪霊やけがれから身を守るために、鶴ノ木地区にある古代沼の岸辺でお祭りをしていました。



■ 胞衣壺

子供の成長を祈るために、赤ちゃんをくるんでいた胎盤とお金を一緒に埋めたものです。



秋田城跡の各種事業やイベントに関するお問い合わせは

秋田市教育委員会 秋田城跡調査事務所
〒011-0907 秋田市寺内焼山9番6号
TEL.018-845-1837 FAX.018-845-1318

※秋田城跡では、みんなに参加してもらっているいろいろなイベントをやっています。また、「秋田城跡ボランティアガイドの会」の皆さんが史跡公園などを案内してくれます。イベントや案内について知りたい方は、調査事務所に聞いてください。

